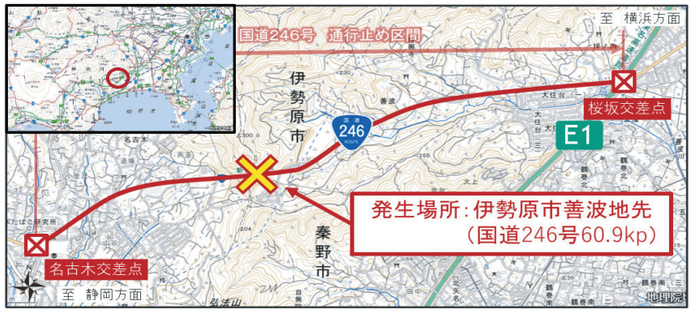
コラム：伊勢原市善波地先（災害復旧）

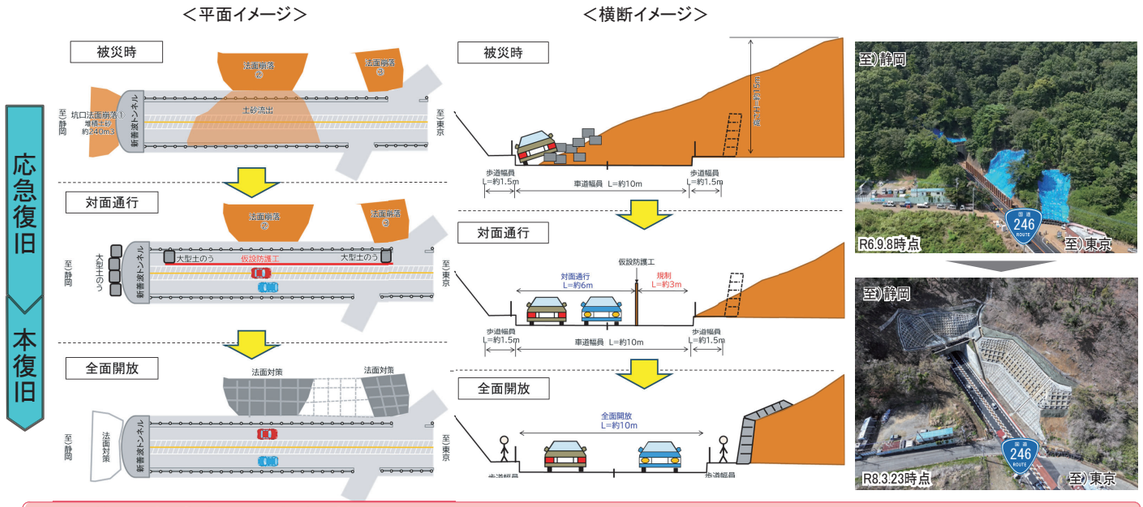
令和6年8月30日（金）7時6分頃、台風10号に伴う豪雨により国道246号新善波トンネルの厚木側坑口付近の法面が崩落し、神奈川県伊勢原市桜坂交差点～秦野市名古木（ながぬき）交差点間を**約10日間の通行止めにより応急復旧を行いました。**

その後、本復旧に向けて工事を推進し、**令和8年3月31日に本復旧工事が完了**しました。

■平面図



■復旧の流れ



■本復旧完成までの主な流れ

準備工 伐採工 ▶ 掘削工 法面整形工 ▶ 法枠工 鉄筋挿入工 水抜きボーリング工 ▶ グランドアンカー工 擁壁工 崩落土砂防護柵工 ▶ 排水工 歩道復旧工 車道復旧工

◎令和7年2月14日に本復旧工事を契約後、工事を推進し、令和8年3月31日に工事完成

＜発災～応急復旧＞

令和6年8月30日（金）

○7時6分頃、法面崩落が発生※車両2台が巻き込まれるが負傷者無し

令和6年8月31日（土）

○学識者による現地調査

○並行する東名・新東名高速道路の代替路（無料通行）措置

令和6年9月2日（月）

○第1回 国道246号伊勢原市善波地区法面崩落対策検討委員会
→応急復旧方針決定

○第1回 国道246号等災害マネジメント検討会

○第1回 国道246号伊勢原市善波地区法面崩落連絡調整会議

令和6年9月9日（月）

○6時00分～ 応急復旧工事完了・通行止解除（対面通行）

○迂回のための高速道路（東名・新東名）無料通行措置を終了

発災直後の状況

発災直後の状況

無人化施工（土砂撤去）

災害対策本部車

コラム：『箱根駅伝』の開催前に、関東学生陸上競技連盟、地域の建設業協会、道路管理者と協力して、合同徒歩パトロールを実施

東京箱根間往復大学駅伝競走『箱根駅伝』の開催にあたり、出走者や観戦者への安全性の観点から、関東学生陸上競技連盟のほか各道路管理者、地域の建設業協会関係団体と合同で、徒歩による車道及び歩道の安全点検と清掃活動を実施しています。

令和７年度は、国道15号 横浜市鶴見区（鶴見中継所前後）を中心に、横浜国道事務所、（一社）関東学生陸上競技連盟、（一社）神奈川県建設業協会と合同で、徒歩による路面の点検、パトロール、清掃等を実施しました。

横浜国道事務所では、秋に管内全域で徒歩パトロールを実施しており、駅伝区間では、神奈川県内（川崎～小田原間）の管理区間において、安全点検及び清掃を実施。道路管理の側から、箱根駅伝を応援しています。

合同徒歩パトロール 出発式

国道15号 横浜市鶴見区内でのパトロール参加者と実施状況

コラム ： ボランティアサポートプログラム（VSP）・道路協力団体

■ボランティアサポートプログラム（VSP）

道路を慈しみ、住んでいるところをきれいにしたいという自然な気持ちを、形あるものにしようと考え出されたのが、「ボランティア・サポート・プログラム」です。道路愛護活動をきっかけに、地域コミュニティの活性化が期待できます。

実施団体と道路管理者・協力者（自治体等）とで協定を結び、その内容に基づいて清掃・植樹管理などを行っています。

現在、横浜国道事務所では69の団体がボランティアサポートプロクラムに登録し活動しています。

■道路協力団体制度

地域の実情に応じて道路管理の充実を図ることを目的として、平成28年に創設された制度で、令和6年6月現在、直轄国道・地方道あわせて、全国で67団体が指定されています。

道路協力団体は法律上位置づけられた団体であり、その活動のために必要な道路占用等がより柔軟に行えるようになるため、オープンカフェや物販施設等の施設を運営して得られた収益を用いて、道路清掃・植樹管理等の活動をさらに充実させることができます。

令和6年度には、横浜国道事務所管内の国道1号と横浜市が管理する横浜市道にまたがる横浜駅東口エリアで活動する「横浜新都市センター株式会社」と、全国で初めて国と自治体による同時指定がなされました。

ボランティア団体による活動

道路協力団体による清掃活動